

1129.2.7

産経

保育団体トップ

「イクボス」宣言

職場環境整備奮闘

県内の保育所などが加盟する真保育連盟連合会の小川益丸会長は6日、職場のトップが仕事と育児を両立できる職場環境を構築する「イクボス宣言」をした。人材不足が深刻化している保育施設の働き方を見直し、職員を定着させたい考え。

県庁で湯崎英彦知事も見

守る中、宣言をした小川会長は「目標は高いが肝に銘じて遂行していく。心豊かで希望が持てる職場を作って発信したい」。湯崎知事は「保育士の職場環境を整備し、人材不足解消に寄与してもらえれば」と期待を寄せた。

宣言の前には、男性の育児や家事を支援するNPO法人「ファザリング・ジャパン」の安藤哲也代表が「イクボスのすすめ」と題して講演。「長時間労働などが課題となる中、短い時間で高い価値を生む働き方が求められる」とし、「上司の覚悟が職場を変える」と強調した。

産経